

ペインティング・ジャーナル

PAINTING JOURNAL Vol.5

塗装その先の未来

Let's painting



目次

Let's painting

ニス塗装

フローリング 2・3

木工部・家具 4・5

工作品・家具・器具の塗装 6・7

フローリング

床板にはニス塗りを。

ワックスがけは手間がかかるばかりでなく、滑りやすくて危ないこともある。床用のポリウレタンニスを塗っておくと滑りにくく、掃除も空拭きだけで十分。また、摩擦や衝撃にも強いいため、床板をいつまでも美しく保つことができる。



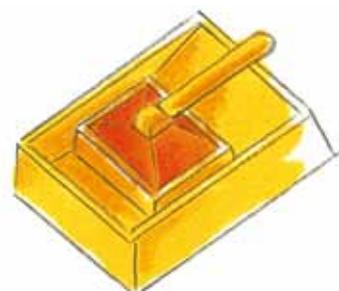
■必要な塗料・用具



■床用ニス（水性と油性あり）



■マスキングテープ



■コテバケおよび受け皿



■ニスバケ



■ペイントうすめ液



■サンドペーパー（あて木をつけて使う）

1



まず掃除機で床をきれいに掃除する。ワックスが塗ってある場合は、ペイントうすめ液をボロ布にしみこませ十分にふき取る。油よごれなどがある場合も同様。

2



ニスが付着をよくするために、サンドペーパー（＃180～240）で床面を軽く研いでおく。研ぎカスはきれいに取り除く。

3

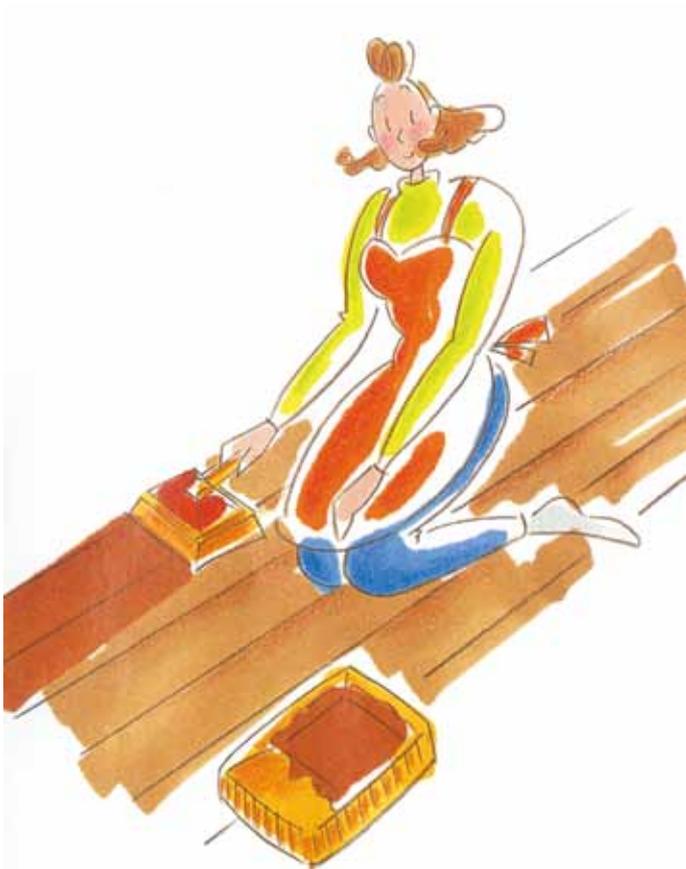


壁・柱など、塗料がついては困るところにはマスキングテープを貼っておく。最初にスジカイバケを使って、すみっこや塗りにくい部分を塗っておく。

4

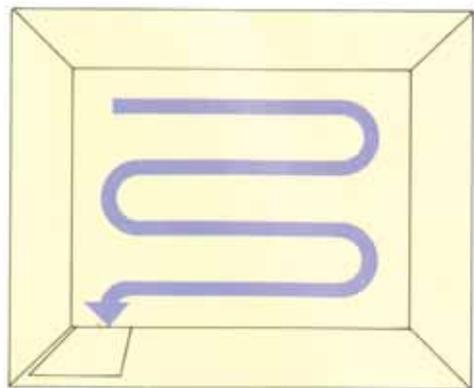


全面を塗る前に、左の図のように塗る順序を考えておく。広い面を塗る場合は、コテバケが能率的で、きれいに塗れる。1回塗って、十分に乾いてから2回目を塗って仕上げを上げる。



Attention!

■ 塗装の順序を考え、換気を十分に



床の塗装は、前もって塗る順序を考えておかないと、うっかりして塗った上を歩くことになってしまう。入り口に一番遠いところから始める。またドアや窓を開けは放ち、よく換気をする。

特に注意すること

1回塗りして乾いたあと、塗面がザラザラしている場合はサンドペーパー（＃320くらい）を軽くかけてから2回目を塗る。

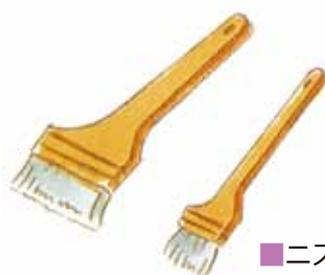
木工品・家具

日曜大工でつくった作品を、着色ニスで塗装する。木目の落ちついた味わいが出てくる。あらかじめ、との粉を木目にすりこんでおくと、仕上がりがきれいになる。

〈ステイン着色→透明ニス塗装〉という方法もあるが、初心者は着色ニス仕上げが手軽である。



■必要な塗料・用具



■ニスバケ



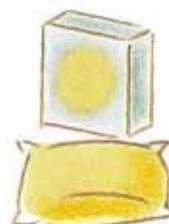
■ペイントうすめ液



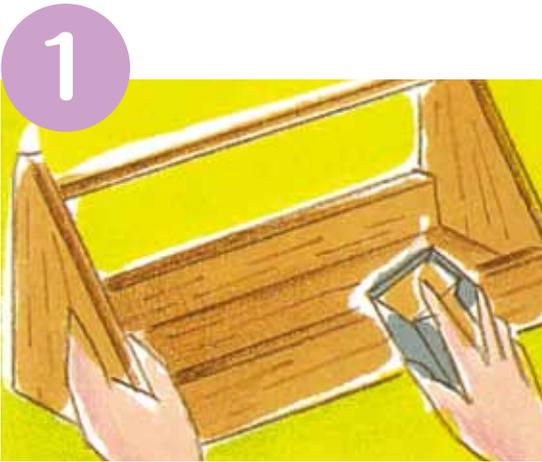
■着色ニス(水性と油性あり)



■サンドペーパー(あて木をつけて使う)



■との粉(塗料を塗る前の木材の目止め材、キメの細かい木材の場合は必要ない)



木の表面には、細かいケバ立ちや凹凸があるので、木目にそってサンドペーパー（＃120～240）で研いで、平滑にする。平らな部分は、図のようにあて木をし、曲線の部分は指に巻きつけて、ペーパーがけをする。



つぎにとの粉で目止めをする。との粉を水で溶いて、ハケですり込むように塗る。（キメ細かい木の場合は、との粉の目止めは必要ない。）



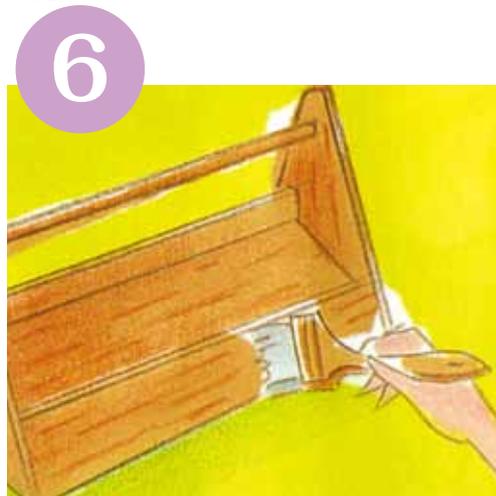
との粉が半乾きになったら、ポロ布で円を描くようにして強く刷すり込み、余分などの粉はふき取る。との粉が乾いたらサンドペーパー（＃240くらい）で軽く研ぐ。



着色ニス塗るとき、1回目は木地への吸い込みが多いので、少し薄めに塗る。木目にそってハケを運び、手速く塗るのがコツ。塗りにくいところを先に、広い面をあとから塗る。



1回目の塗料が十分に乾いたら、目の細かいサンドペーパー（＃320くらい）を軽くかける。研ぎカスは、ポロ布できれいにふき取る。



もう1回塗って仕上げ、ツヤを一層出したい場合は、2回目の塗料が乾いたあと、もう一度軽くサンドペーパー（＃320くらい）をかけ、3回目を塗る。塗り重ねると、ツヤに深みが出てくる。

工作品・家具・器具の塗装

長年使ってきた家具やおもちゃなどは、愛着があってなかなか捨てきれないもの。塗り替えて化粧してみる。ラッカーは乾燥がきわめて速いので、小さなおもちゃなどに適する。ベビーダンスなどの大きいものをハケ塗りには、木部・鉄部用エナメルが適する。(エナメルは乾燥が速く、膜が堅く、光沢に富んでいる)



■必要な塗料・用具



■木部・鉄部用エナメルまたはラッカー
(水性と油性あり)



■マスキングテープ

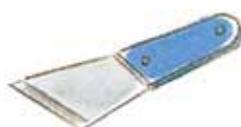


■サンドペーパー
(あて木をつけて使う)

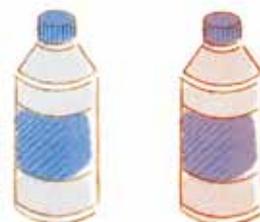


■スジカイバケ

■小バケ



■皮スキ



■ラッカーうすめ液

■ペイントうすめ液

1



手あかや油よごれがついている場合は、ボロ布にペイントうすめ液をつけてふき取る。スチール製でサビが出ている場合は、サンドペーパー（＃100～150）で落とす。

2



はがれそうな浮いた塗膜は、皮スキやサンドペーパーではがす。

3



塗料の付着を良くするために、全面にサンドペーパー（＃240くらい）を軽くあてておく。また、塗料がついては困るところは、マスキングテープでカバーしておく。

4



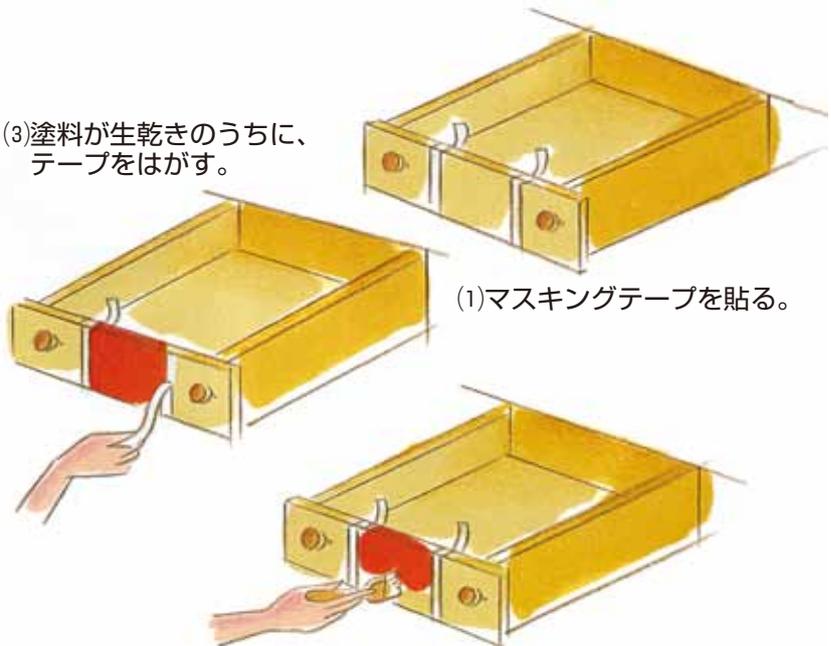
エナメルまたはラッカーを塗る場合も一度に厚く塗らないようにする。あまりハケ返しをせず、手速くのばすように塗り、十分乾いてから、もう1回塗って仕上げる。

Attention!

■ 模様やストライプを入れる場合



(3) 塗料が生乾きのうちに、テープをはがす。



(1) マスキングテープを貼る。

(2) 塗料を塗る。

相談事業並びに「ペイント工房」のご案内

相談事業は、公益目的事業の一つである塗装技能・技術の知識の啓蒙普及事業の一環として、県市民の皆様の塗料・塗装工事への疑問や問題に対し、中立的な立場の専門家（ペイントコンシェルジュ）からの助言で、問題等の解決支援を行うものです。

本事業は、この他に、大人を対象の実践的な塗装教室、小・中学生を対象の親しんでもらう体験教室「ペイント工房」やボランティア活動等です。

電話・巡回いずれの相談も無料です。

◎電話相談

開催日時（原則奇数月の3火曜日）

3月17日（火）午後1時30分～午後4時30分

相談専用電話 045-263-3960（相談日専用です）

- ・お掛け間違いのなきようお願いいたします。
- ・当日解決できない疑問や問題は、後日専門家よりご連絡いたします。
- ・非通知でのご相談は、お受けできませんので、予めご了承下さい。
- ・本相談の個人情報、相談事業以外には使用することはありません。

◎巡回相談

～おでかけください～

3月29日（日）午前10時～午後3時 場所 横浜市技能文化会館

◎体験教室「ペイント工房」

～大理石模様によるオリジナル下敷づくり～

3月29日（日）午前10時～午後3時 場所 横浜市技能文化会館

参加費：500円 定員：午前、午後の部とも20名 対象者：小学生

